

## 不具合事例①化粧スレートのケラバ部

屋根における不具合事例について、具体的な写真をもとに報告します。



左写真は、ケラバ破風板が腐朽しているとのことで、屋根材・化粧スレートを剥がしたところです。ケラバ水切りから雨水・土が溢れ、ルーフィング上に浸水・滞留した痕が見られます。滞留した雨水が、クギ穴などからルーフィング下に浸水して、ケラバ破風板の劣化につながりました。漏水のメカニズムは、次の通りです。  
①化粧スレートは踏み割れが起きるため、ケラバ水切り・捨て板のハゼは高さ2mm程度と低い仕様になっています。  
②水を流す部分(捨て板)と化粧スレートの間の隙間(2mm程度)に、土が経年で堆積しています。  
③堆積した土は堤防の役目となり、雨が降るとオーバーフローして、ルーフィング上に溢れ出ます。  
④溢れ出た雨水は、化粧スレートの端部で滞留します。この部分は、スレート留め付けクギの位置となります。クギを伝わってルーフィング下に浸水します。

右写真は別の現場で、化粧スレートを剥がした状態です。築7年程度の物件です。土と埃が、スレートの段ごとに堆積しています。そこからルーフィング上に、土が雨水といっしょに浸水していることが分かります。



下写真は化粧スレートのケラバで、野地合板が劣化した事例です。特に左下写真は、野地合板が劣化したために、屋根材・化粧スレートが風で飛散していました。野地合板の劣化により、屋根材の耐風性が低下したことを示す事例です。

